

潮音寺だより

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第260号
平成17年6月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬1-10-11



油絵：小島午郎

あれが欲しい
これも欲しい
それにつけても
腹の立つことばかり
なのに
またやつてしまつた
どじ 失態
こんなわたしで
いいんですか
いいんです
それが念佛者
ありがたいことです

粗忽惣兵衛

むかし、粗忽惣兵衛といひ、われはそれせんじのかしら男がおりました。

ある日、愚団が朝早くに日の神参りをするからと、女房にこいつは弁当を作りさせ、枕元において置きました。

翌朝、日くつき神参りをしたとき、あわてて賽錢を投げよのとしへ、財布(さいふ)を落(おち)してしまつて、がつてつしまへ返りました。

それじや、こやうや、あひとび、利益があるかもしけぬと、金を取られ、愚団の顔から離したり直して、弁当を食べよつづかねじ、されば女房の腰(こし)に包(い)んだ自分の枕でした。

おひつた惣兵衛、枕を窓(まど)から投げて、家へとんで帰り、女房をじやしつかねば、われは隣の女

房でした。

惣兵衛は、平調(ひらじょう)をし、結婚(けつこん)日(ひ)の神様でも、惣兵衛の心(こころ)には画(ゑ)になんたれりな……。

「こんな言詰(ことづ)があつまつたが、せせか、いんな男はおぬまつと思つてしまつた。といひがどひにじ、なんじ、自分の中にねつました。

先日、走らなくともよごといふで走り、立(たつ)まゆこい、横(よこ)飛びといふ感じで転倒(てんとう)をし、アスファルト道路(ろこうじゆ)に左顔面(さがんめん)をしたたか打ちつけてしましました。眼鏡(めがね)のレンズは割れ、愚団の顔から離(はなれて)いた。手には、血(あか)がしたたり落ちました。

近(ちか)いにじった警備員(けいびいん)の方が、救急車(きゅうきしゃ)を呼(よ)んで下(くだ)り、病院(びょういん)でむすび処置(しょち)をしてやうべ、幸(縁(えん))、骨(ほね)には異状(いじょう)が無(な)く、一応(いっとう)の安堵(あんづ)はしました。

の、顔面(がほくめん)がひじり腫(いぶ)れ上がりつて

くの頭(かぶ)かしたボクサーのようになつてしまつました。三田(みた)たつたも、顔(おもて)に貼(は)り付(つ)けてある大きな包帯(ほうたい)で、眼(まなこ)の脇(わき)が何(なん)とも恨(うら)めしへ、たぬ頭(かぶ)のつ、本誌(ほんし)原稿(はらこう)と悪戦(あくせん)苦闘(くとう)してこの次第(じだい)です。

愚(ぐ)に起(おき)しけば、現(げん)在(ざい)職(しょく)も、これまた(また)、バイク事故(じゆ)で救急車(きゅうきしゃ)のお世話(せいわ)になつた(い)じが、一度(いちど)や一度(いちど)ではあつません。まだ、脚立(くわだて)の留(る)め金(きん)をはじめおのの上(うえ)に乗(の)つて、自分の重(ひさ)みで開(あ)いた脚立(くわだて)に挟(は)まられて、足(あし)を複雑(ふくざ)骨折(こつせき)したり、常に、小走(こま)りしてこうよつたせつがちな性格(せいけい)から、「これまで、しなくてよい怪我(けが)をしたが、思(おも)わぬ粗(そつ)相(あわ)も多(多く)かったのであります。」こんなそそがしさを、自分の親(おやぢ)ながら、呆(あき)れる(あきらめ)るも多(多く)かった

のであります、今回の転倒事故

違ひないよつて。あ。

によつて、切れない親子の因縁を、^{呪い}でも、しあわせに自覚せねばなりぬといひなりました。

「粗忽」^{ハヤシ}、「輕率」^{カキヤシ}といった行為は、伝教的にみれば、^{煩惱}^{ハラフ}から起^{ハタツ}ります。

煙惣は、眞心を乱し慳おゆ。正しき判断をやめたむだのせうてはたらくをこころおむ。その数は、百八あれどもじゆこわれますか。「賣・贋・痴」の三毒、こねるに「貪欲（むやび）」、「愚癡（こから）」、「愚痴（ぬのか）」に集約あひじよかともおむ。せりて、笑わ語られども、「痴」に附かれるしれまむ。「痴惣」は、何處か繰り返すといつて、とかひすれども、やせり、「痴」に附いじよは間

また、「痴」をサンスクリット語で「モーハ」といへ、「馬鹿」はその音を当したものとのいのが通説になつてゐます。なんばく やはり、「痴惱」 は、うつむか 「馬鹿」 といひことになります。

減らす努力をせよ、といつのがそ
の教えですが、たけいじょう大乗仏教、特に淨
土教においては、自分は、煩惱いつ
ぱいの、愚かな存在である」とを
認めなさい、馬鹿な人間であるこ
とを自覚しなさい、といつのがそ
の教えです。

宗派を問わず、佛教徒は、その誓として、四つの誓文「四弘誓願」を唱えなくてはなりません。そして、一番目の誓文には、「煩惱は無邊なれど、誓つて断ぜん」とを願う」と白らの煩惱を断つ」とを

つまり、粗忽は、粗忽のままで
よい、愚かな者は、愚となるが故
に、阿弥陀仏の慈悲を、ありがた
くいただく」とができるのです。
それが、念佛者の、ありがたいと
ころです。

宣^{アハ}せねばなりません。
しかし、粗忽^{ハタカ}怠慢^{ハラカ}の衛ではあります
せんが、神様でも直せないのが、粗忽^{ハタカ}
怨たるゆえんです。では、どうす
ればよいかといつて 同じ仏教で
も、上座部^(小乗)の仏教では、あ
くまで、煩惱を無くす、あらざな

「もあれ、わたしの軽率な行為は、多くの方々に、大変迷惑を掛けてしまいました。でも、少々痛い思いをしましたが、良い体験もさせもらいました。これからは、「粗忽」と上手に向き合つてこうと思つています。

大乘・小乘

だいじょう
しょうじょう

日本や中国に伝わった仏教は

大乗仏教であるといわれます。

きた仏教であるといえます。
なお、スリランカやタイなど
東南アジアに広まった南方仏教

「大乗」の原語はサンスクリット語のマハーヤーナで、大きな乗り物を意味します。

釈尊が入滅後、仏教は非常に教理的になり、一般の人々には手のとれないものになりました。これに対してもっと大勢の人々を、そして自分よりも先に他の人々を救おう、という菩薩行を強調したのが大乗仏教の興りです。

大乗仏教では、すべての人々がブッダ(覚者)になりうる素質をそなえていると考え、一般の人々の側にウエイトをおいてで

住職通信

眠れぬ者には夜は長い
疲れた者には道は遠い
生死のこの世がうとましい



佛教と軽蔑して呼んでいましたが、現在では上座部佛教と呼びならわしています。上座部佛教の人々は、釈尊自らの教説を忠実に守っていると自認し、戒律の数も多く、今も厳しく実践されています。

表紙



小島午郎様から、また今回、「
自身で描かれた、川のせせらぎ
が聞こえてそうな、すばらしい
油絵を頂戴しました。

不発弾

近くのマンション建設用地から、不発弾が出てきて、5月28日の午前中、自衛隊が撤去作業を行います。当田、寺にも避難勧告が出ており、お寺参りは出来ません。よろしくお願いいたします。

位牌堂

宗祖法然上人八百回大遠忌潮音寺記念事業へのご協力、なにとぞよろしくお願いいたします。

▼新緑や大樹を見上げ

深呼吸
沐魚